

(様式3号)

学位論文の要旨

氏名 濱元淳子

〔題名〕

救急医療における院内トリアージシステムの効果

〔要旨〕

【目的】

本研究の目的は、日本緊急度判定支援システム (Japanese Triage and Acuity Scale : JTAS) を用いた院内トリアージシステム導入によるトリアージの変化を明らかにし、迅速な患者対応への効果について検証することである。

【方法】

1. 7つの救急医療施設において、救急医師の「院内トリアージに対する認識」、トリアージナーズの「緊急度判定能力に対する認識」、および救急患者の「満足度」についてJTAS導入前後で質問紙を用い調査した。
2. 同施設において、トリアージ調査票を用いてJTAS導入前後における院内トリアージの実態を調査した。

【結果】

1. JTAS導入によって、救急医師の「トリアージへの同意」、「訓練後のトリアージに対する信頼」など、院内トリアージに対し肯定的な認識が高まった。
2. JTAS導入によって、救急外来経験年数10年以上のトリアージナーズにおける「経験的知識」、5年以上における「批判的思考能力」、「アセスメント能力」および「コミュニケーション能力」が向上したという認識が高まった。
3. JTASの導入によって、救急患者の「診察待ち時間中の看護師の対応」、「診察までの待ち時間の長さ」および「診察の順番」に対する満足度が上昇した。
4. JTAS導入によって「受付からトリアージ」までの時間は3.8分短縮した。また、「トリアージ判定」時間は、1分短縮した。
5. トリアージナーズと救急医師の緊急度判定の差は、導入後に22.0%減少し、緊急度判定の一致率は $\kappa=0.486$ から $\kappa=0.820$ へ上昇した。

【結論】

本研究結果は、JTAS導入によって、トリアージナーズの緊急度判定能力と、救急医師、および救急患者のトリアージに対する認識に肯定的な影響を与えたことを示した。また、トリアージに関わる時間が短縮され、トリアージナーズと救急医師の緊急度判定におけるより良い整合性が検証できた。これらの結果は、JTASを用いた緊急度判定による、迅速な患者対応への効果を示していた。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第1357号	氏 名	濱元 淳子
論文審査担当者	主査教授	清水 昭彦	
	副査教授	市原 清志	
	副査教授	山勢 博彰	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
救急医療における院内トリアージシステムの効果			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Impacts of the introduction of a triage system in Japan: A time series study. (日本におけるトリアージシステム導入の効果：前後比較デザインによる)			
掲載雑誌名 International Emergency Nursing			
第 卷 第 号 P. ~ (2014 年 月 掲載・掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
<p>本研究は、日本緊急度判定支援システム (Japanese Triage and Acuity Scale : JTAS) を用いた院内トリアージシステム導入によるトリアージの変化を明らかにし、迅速な患者対応への効果について検証することであった。JTAS 導入前後で救急に携わる医療者と患者の認識・満足度の変化と、院内トリアージの実態を調査した研究である。結果は、JTAS 導入によって、トリアージナーズの緊急度判定能力と、救急医師、および救急患者のトリアージに対する認識に肯定的な影響を与え、トリアージに関わる時間が短縮され、トリアージナーズと救急医師の緊急度判定におけるより良い整合性を検証することができた。</p> <p>論文審査では、次のことについて質疑を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 緊急度判定でレベル差があった事例についてどう評価するのか ● 諸外国における院内トリアージ研究の調査内容と、この研究との違いを含めた論文のオリジナリティについて ● 救急患者が体感した診察までの待ち時間についての対象者に関して ● JTAS の概要の詳細について ● JTAS 導入前後におけるオーバー/アンダートリアージの傾向について <p>いずれの質疑についても論文に記載されたことを基に回答があり、適切な方法または結果を導いていると判断できた。また、質疑において指摘した必要な加筆・修正点について、最終的に提出された論文では適切に加筆・修正されていた。</p> <p>この研究によって得られた結果は、JTAS を用いた緊急度判定による迅速な患者対応への効果を十分示すものであり、我が国の円滑な救急医療システムに貢献できる成果を生み出した。さらに、この研究成果が平成 24 年度診療報酬改定に関わる重要報告書として提出され、平成 24 年 4 月より「院内トリアージ実施料」として診療報酬が認められたことは、この研究の社会的貢献を示すものであり、高く評価できる。よって、博士後期課程の学位論文として価値あるものと認めた。</p>			
備考 審査の要旨は800字以内とすること。			